

2025 年全国通信三田会秋期幹事会 議事録

日時：2025 年 10 月 18 日（土）13：00～14：40

場所：三田キャンパス 南校舎 445 号教室

参加者：（敬称略）山岡、吉浜、堀田(健)、田沼、幸治、高橋(豊)、瀬戸田、伊藤、田中、由元、渡邊、岩田、山川、星野、平松、小林（節）、伏屋、鈴木、阿部、出口、矢部、迫、須賀、鶴岡、野口、小島、竹原、高橋(伸)、吉田、田山、野村、大原、津留、大森、堀田(敏)、長澤、林、石津、小野、松本、藤村、矢澤、石川、小林（希）（44 名）

【2025 年全国通信三田会秋期幹事会】

◆議事進行

石川総務部長より

出席幹事確認：幹事 100 名出席者 44 名で、規約第 10 条 3 項の三分の一超の参加要件を満たしており本会は成立。

司会挨拶：吉浜副会長

吉浜副会長より、顧問 3 名の紹介、物故者 1 名の報告と黙祷。

議長と書記の選出が諮られ一任により下記の通り選出される。

議長：堀田副会長 書記：小林総務部委員

◆開会

1. 会長挨拶：山岡会長（資料参照）

- ・通信卒業生 17,000 人の記念式典の件。
- ・今年 3 月の卒業生では、2 名へユニコン賞贈呈。
- ・今年の春の幹事会を松本市で交流会という形で 5 月に開催した。来年の春は、大阪にて交流会を開催予定。
- ・6 月は、徳島通信三田会の 50 周年記念と合わせて、第 26 回中四国合同通信三田会が徳島市で開催。
- ・7 月は、札幌通信三田会の 55 周年記念式典が開催された。5 年毎に式典をしている。
- ・広報の星野部長により 121 号会報を発行。
- ・9 月は、拡大北関東 3 県の合同三田会が、横浜と鎌倉を散策する形で神奈川通信三田会により開催。
- ・九州合同通信三田会長崎大会が開催。

2. 各部報告

- 1) 企画部：出口部長 この後、連合三田会の麻生会長による講演、卒業生 17,000 人達

成記念式典を開催。

- 2) 会計監査：柴田会計監査 丸尾氏と、正確に処理されていることを確認。
- 3) 広報部：星野部長（資料参照）会報誌 121 号発行した。次号の 122 号が 2 月来年発行予定。
- 4) 渉外部：迫部長（資料参照）。2025 年 9 月卒業生の名簿は 2 月に届く予定。
- 5) 情報システム部：高橋豊副会長 HP を改定した。
- 6) 総務部：石川総務部長
 - ・人事について。出口企画部長が副会長、須賀総務副部長が企画部長へ就任。新たな通信三田会会長 4 名が幹事へ就任。
 - ・2026 年春の交流会を大阪で開催する際、交流会で挙がった議案等は、次の役員会で諮らせてもらい確定させる。
 - ・2027 年春の交流会開催地について、8 月末までの募集に対して、申し込みがなかった為、
今回は是非とものお声があれば次回の役員会で諮らせてもらう。
- 7) 地域連絡部：瀬戸田副会長（資料参照）九州合同(長崎開催)、中四国合同(徳島開催)通信三田会の開催日付訂正。

3. 各地域三田会報告

- ・東京：伊藤会長（資料参照）行事関連報告。
- ・神奈川：竹原会長（資料参照）連合三田会集合場所について報告。
- ・千葉：渡邊会長（資料参照）行事:手賀沼散策の報告。
- ・茨城：山岡会長 北関東合同 3 県の三田会開催報告。
- ・群馬：田山会長（資料参照）活動を充実させていく。
- ・宮城：小野会長 松島にあるみちのく伊達政宗歴史館の見学の報告。
- ・札幌：吉田会長（資料参照）55 周年記念式典開催の報告。
- ・岩手：藤村会長 岩手通信三田会が発足。会員 7 名。実際活動しているのは 5 名。
- ・静岡：長澤会長代理（資料参照）新年会と総会の報告。
- ・山陰：松本事務局長（資料参照）復帰した三田会。年に二回の御飯会。現在 7 人。
- ・広島：瀬戸田会長（資料参照）活動報告。
- ・愛知：岩田会長（資料参照）新入会員 1 名。2～3 名増える予定。
- ・長崎：堀田(敏)会長 九州合同通信三田会長崎大会の報告。栗生部長が長崎にお越しになった。
- ・熊本：都留元会長 九州各県と連携して生き残っていく。10 年・20 年後を見据えて考える。
- ・徳島：大原会長（資料参照）50 周年行事の報告。11 年ぶりの開催。
- ・大分：石津会長（資料参照）中津ツアーの報告。来年 9 月 12～13 日、九州合同三田会を中津で開催予定。

- ・ 松本：矢澤会長代理 春の松本交流会の報告。
- ・ 岡山：大森会長 （資料参照）中四国を岡山で開催する予定。

4. 慶応義塾の近況報告

駒形哲哉常任理事により慶應義塾の近況について(20 分)。

- ・ 5 月 27 日より第二次伊藤塾長体制
- ・ パリオリンピックでフェンシング、レスリングで塾生が活躍。
- ・ 命あるものとの共生の活動
- ・ 世界最前線の人を大学にお招きして講演をしていただく。
- ・ 研究については、分野横断的に社会実装を目指す。
- ・ 量子コンピューターと人工知能を組み合わせ、健康維持に関する体内のメカニズムを研究。世界トップレベルの研究。
- ・ 生産性を上げるためにはA I を活用していく方向。
- ・ 財務的には、半分は研究、半分は医療に使っている。
- ・ 予防医療センターにて健康寿命を延ばす為の優れた医療サービスを目指す。

◆閉会

以 上

(文責 2025/10/20 総務部 小林希依子 記)